

凡例 問い合わせ(申込)先 HP ホームページ Eメールアドレス



### 中央区まちかど展示館 季刊誌Vol.14(日本橋エリア編)発行

江戸開府以来400年以上の歴史と伝統を誇る中央区に伝わる多様な文化資源を紹介している「まちかど展示館」では、季刊誌を発行し展示館の魅力発信しています。今回発行された「Vol.14日本橋エリア編」では、豊かな水辺とともに歴史と伝統を育んできた展示館の紹介と川と橋の今昔を写真で特集しています。

季刊誌は区役所や各まちかど展示館、区内の東京メトロ駅ラックで配布する他、まちかど展示館HPからダウンロードできます。

問まちかど展示館運営協議会事務局(文化・生涯学習課内) ☎(3546)5346



▲まちかど展示館HP

### 環境情報センター

#### 愛称名投票のお願い

区民・事業者の皆さんがより親しみをもてる施設となるよう、環境情報センターの愛称名を募集したところ、246点の応募がありました。

審査の結果、最終候補に選ばれた4点の中から、皆さんの投票で愛称名を決定します。投票にご協力お願いします。

#### 愛称名の候補

- A: エコノバ B: ミライエ C: エコする中央 D: エコトワ

#### 投票資格

どなたでも

#### 投票期間

8月20日まで

#### 投票方法

2次元コードから投票できる他、環境情報センターで直接投票できます。

#### 問環境情報センター

☎(6225)2433



▲投票はこちら

### 補正予算のあらまし

4億5,332万9千円を増額補正

令和5年度の一般会計補正予算が、6月に開かれた第2回区議会定例会で可決されました。今回の補正予算は、次のとおりです。

#### 補正予算額

4億5,332万9千円

#### 補正後の予算額

1,498億6,499万3千円

#### 主な内容

##### 多子世帯への保育料負担軽減の拡充(第2子無償化の実施)

(1,464万3千円)

認可保育所などを利用している多子世帯の経済的負担を軽減するため、本年10月から第2子の保育料を無償化します。

##### 産後ケア事業の充実 (2,961万円)

### トピックス



#### 第37回大江戸問屋祭り

7月2日、日本橋横山町・馬喰町の新道通りで「第37回大江戸問屋祭り」が開催されました。このエリアは江戸時代から続く日本有数の問屋街で、現在も繊維、衣料、生活用品、化粧品などさまざまな種類の店舗が軒を連ねています。この日に限り一般の方も、特別価格で商品が購入できるとあって、通りを埋め尽くした大勢の買い物客は貴重な問屋体験を楽しみました。

産後ケアを必要とする全ての方が利用できるよう、対象要件を緩和するとともに利用者負担の軽減を行う他、実施施設を追加するなど受け入れ体制の充実を図ります。

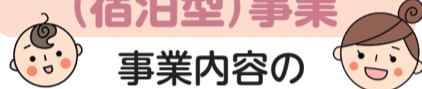
#### インフレスライド条項等の適用に伴う工事費の増額 (4億907万6千円)

技能労働者の確保・育成のための労働市場の実勢価格を適切・迅速に反映するため、令和5年3月1日現在工期中かつ2カ月以上工期が残っている工事および令和5年3月1日以降に契約を締結する工事で、旧労務単価を適用して予定価格を積算しているものについて、インフレスライド条項などを適用し、工事費を増額します。

#### 問財政課財政担当

☎(3546)5255

### 中央区産後ケア(宿泊型)事業



#### 事業内容の一部変更について

助産師から、出産後のお母さんと赤ちゃんと一緒に母子のケアや授乳指導、育児指導などを受けられる「中央区産後ケア(宿泊型)事業」について、7月1日から順次、事業内容の一部を変更しています。詳しくは区HPをご覧ください。

問中央区保健所健康推進課予防係

☎(3541)5930



▲区HP

### 区内の文化財

#### 名水白木屋の井戸

都指定文化財 旧跡 日本橋一丁目4番

日本で最初の百貨店といえば、明治37年(1904)に欧米のデパートメント・ストアを手本として、近代的な大型小売業へと業態を転換した駿河町(現在の日本橋室町)の三越呉服店(現在の三越の前身)が良く知られています。続いて区内(旧日本橋区)では、大正8年(1919)に通一丁目(現在の日本橋一丁目)の白木屋呉服店が百貨店へと転身を遂げています。江戸時代に日本橋で開業した両大店は、明治末年から大正初期に商業形態・経営改革を進め、関東大震災後の昭和初期に次々と開店していく百貨店の先駆けとなりました。今ではこうした歴史性を持つ日本橋室町や日本橋一丁目の場所に、都心型の新しい複合商業施設「COREDO(コレド)」が展開し、歴史と伝統を兼ね備えた活気のある商業地としてさらなるにぎわいをもたらしています。

なお、白木屋呉服店は、昭和30年代の合併を経て東急百貨店日本橋店(平成11年閉店)となり、跡地には平成16年(2004)にCOREDO日本橋がオープンして現在に至っています。時代の移り変わりとともに店舗構えや商業展開などは大きく変化しましたが、当該地において大正7年(1918)に東京府の「史蹟」指定を受けた文化財(江戸時代の白木屋時代からの井戸)が今日にも引き継がれて東京都指定の旧跡に位置づけられています。

江戸の三大呉服店(越後屋・白木屋・大丸屋)に数えられるまでに発展した白木屋は、近江国(現在の滋賀県)長浜出身の大村彦太郎(白木屋の初代)が京都で材木商を営んだ後、寛文2年(1662)に江戸へ下って小間物商「白木屋」(当初の店は通二丁目)を開いたことに始まります。3年後には通一丁目に移転して店舗を拡大し、商い品も小間物類から呉服物類へと増えていきました。二代目彦太郎の時代には、さらなる白木屋の拡大発展(土地家屋の購入や店舗の拡大、取扱商品の増加(羽二重地・縮緬・毛氈・紗・綾・晒木綿・郡

内縞・絹織物など))が図られ、家業もゆるぎないものとなりました。

ところで、二代目彦太郎が店主(貞享元年(1684)～正徳元年(1711))を務めた頃の江戸城下には、市街への給水として神田上水や玉川上水をはじめ、本所・三田・青山・千川の四上水(享保7年(1722)廃止)が開設されましたが、上水井戸だけでは飲料水の確保は十分ではありませんでした。特に、江戸城下町の建設に伴って埋め立て造成された下町地域は、かつてその大半が浅瀬や海であったため、10間(約18m)にも満たない浅い深度の掘井戸の水では塩気を帯びて飲料水には使えませんでした。

こうした中、日本橋の白木屋二代目は、正徳元年(1711)から良質な水を求めて井戸職人による鑿井を進め、その難作業は2年に及びました。伝承によれば、手応えのあった鋤(鍬)の先を掘り出したところ観世音菩薩の尊像が出現し、間もなく地下水が自噴した(七丈五尺(約22.7m)の深度まで掘ったとも)といわれています。地軸を貫くことで加圧された清水が湧き出た白木屋の井戸水(掘り抜き井戸)は、尊像の出現譚と相まって飲料水に適した「白木名水(霊水)」



「名水白木屋の井戸」の石碑

として評判になりました。また、越前国福井藩主が薬を煎じる水として用いたところ効験で病が快癒したことも世に広まり、諸大名の御膳や点茶に供する名水としても数多く求められました。さらに、江戸に入府した朝鮮通信使一行が白木屋へ立ち寄った際、井戸掘削の篤行・博愛とともに、その甘泉なることを称えて撰文(井筒に鏤刻した撰文は改鑄を経て関東大震災で焼失)したといわれています。

旧跡指定地に白木屋の井戸は現存していませんが、名水の名を刻む黒御影の石碑が在りし日の痕跡として立ち、伝説の尊像も浅草寺境内の淡島堂に遷座(「白木聖観世音菩薩」)して歴史を伝えています。

#### 中央区教育委員会

学芸員 増山一成

(8)

「区のおしらせ ちゅうおう」は区役所、特別出張所、区民館などの区施設、コミュニティバス、区内公衆浴場、一部金融機関、百貨店、ファミリーマート(一部店舗を除く)、都営地下鉄の駅(東銀座・宝町・築地市場・日本橋・人形町・東日本橋・馬喰横山・浜町・勝どき・月島)、東京メトロの駅(京橋・銀座・東銀座・新富町・築地・八丁堀・三越前・日本橋・人形町・茅場町・小伝馬町・水天宫前・月島)、JRの駅(新日本橋・馬喰町)、文化堂でも配布しています。

ちゅうおう 区のおしらせ



SNSなど

